

第4次食育推進基本計画の作成に向けた進め方（案）

	第3次基本計画 （実績）	第4次基本計画 （見込み）
<p>&lt;第4年度（R元年度）&gt;</p> <p>第3次基本計画の進捗状況 及び第4次基本計画作成に 向けた主な論点</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>H26（2014）年度</p> <p>27（2015）・3</p> <p style="text-align: center;">↓</p>	<p>R元（2019）年度</p> <p>2（2020）・3</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
<p>&lt;第5年度（R2年度）&gt;</p>	<p>H27（2015）年度</p>	<p>R2（2020）年度</p>
<p>パブリックコメント</p>		<p>2（2020）6・5 ～2（2020）7・4</p>
<p>重点課題等ヒアリング ①</p>		<p>2（2020）・8・18</p>
<p>重点課題等ヒアリング ② 重点課題の方向性</p>	<p>27（2015）・6</p>	<p>2（2020）・10・1</p>
<p>第4次基本計画骨子（案）</p>	<p>27（2015）・8</p>	<p>2（2020）・11下旬～12月上旬</p>
<p>第4次基本計画（案）</p>	<p>27（2015）・12</p>	<p>R3（2021）・1中下旬</p>
<p>パブリックコメント</p>	<p>H27（2015）・12 ～H28（2016）・1</p>	<p>3（2021）・1中下旬～ （最短2週間程度）</p>
<p>第4次基本計画（案）</p>	<p>H28（2016）・2</p>	<p>3（2021）・3上中旬</p>
<p>第4次基本計画の決定 （食育推進会議）</p>	<p>28（2016）・3</p>	<p>3（2021）・3</p>

# Diversity

生物多様性

食育「三本柱」に  
「SDGs」のゴール  
17個すべてがふくまれる



# Sustainability

持続可能性

# Ecology

環境保全性

食育にも  
SDGsのような  
ピクトグラム表現を

↓  
1964年東京オリンピック開催時に  
外国語（特に英語）によるコミュニ  
ケーションをとることができ難い当  
時の日本人と外国人の間を取り持  
つために、勝見勝らによって開発さ  
れたのが始まりで、1980年代以  
降、広く使われるようになった。

## 3-1 新たな食料・農業・農村基本計画と連動した取り組み強化

- 食育に関しては、今年3月の食料・農業・農村基本計画にあわせ、昨年11月のJAグループの政策提案において、①食料・農業・農村基本計画に掲げる目標・施策と連動した食育推進基本計画の実践・進捗管理、②食農教育や和食推進における関係省庁の連携強化などを提起。
- 食育推進基本計画の目標値と進捗状況を見ると、目標値が現実的でないものや現状値があまり変わらないものもあり、国民的理解を高めるという視点で、実効性ある食育基本計画の推進が必要。

### 【食育推進計画を作成・実施している市町村割合】

	平成30年度	(参考) 平成29年度
全市町村数	1,741	1,741
計画作成市町村数	1,476	1,380
計画未作成市町村数	265	361
作成割合	84.8%	79.3%

作成割合は年々増加しており評価。  
 今後は、新たな食料・農業・農村基本計画との連動とあわせ、「計画から実践」が重要。条例やアクションプランなど、地域で推進・具体化していくことが重要。

### 【学校給食における地場産物・国産食材の使用割合】

平成30年度

	地場産物	国産食材
単独調理場	24.4%	76.1%
共同調理場	29.8%	75.6%
全国平均	26.0%	76.0%

※地場産物は、都道府県内の食材を使用した割合。

国においては農水省と文科省、現場においては地方行政・学校教育機関(栄養教諭)と団体等が密に連携して、地産地消など国産の消費拡大に着実につなげていくことが必要。

# 3-2 食育やSDGsを起点とした国民理解の推進

○ 国民理解をさらにすすめていくためには、食育やSDGsを切り口に経済界等を巻き込んだ国民運動を展開・強化し、国産の消費拡大、農業・農村の理解拡大をすすめるとともに、教育関係者、料理人、行政、団体・企業等による幅広いネットワークを構築することが重要。

## 【食育やSDGsの観点での新たな国民運動】



## 【「持続可能な食と地域を考えるシンポジウム」 (令和元年12月:東京農業大学)】



**【政策面】**  
 ●食育やSDGsの観点から、食料・農業・農村にかかる既存の計画や施策を再検証・位置付け。  
 ⇒特に、**国産消費拡大や地産地消、農村振興等の意義を再認識し、施策を構築・強化。**

**【取り組み面】**  
 ●SDGsのもとに幅広い関係者による連携で、全世代への食育を推進。  
 \* **食育推進基本計画にも同様の方向性を明記することが重要**

さあ、わたしたちの食を巡る未来を  
いっしょに考えてみましょう。

**持続可能な食と地域を  
考える** SDGsと食料安全保障の視点から  
2019年12月17日[火] 受付開始 14:00 開会 14:40 ~ 終了 17:00

東京農業大学 世田谷キャンパス内 百周年記念講堂 定員 500名 入場料 無料

(株)共同通信社と共催。全中中家会長をはじめ、経済界、生協など各界各層の代表者が参加。  
 大学生も講義の一環として、多く参加。食と農の大切さや食料安全保障の必要性などを理解。

# 第4次食育推進基本計画の重点課題として、考慮すべきこと

2020.8.18 女子栄養大学 武見ゆかり

- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、私たちの生活は、好むと好まざるとにかかわらず大きく変化した。
- ・「3密」回避のため、「Stay Home」のため、暮らし方が変わり、働き方が変わり、学び方が変わった。
- ・感染拡大終息の見通しが見えない中、こうした「新しい生活様式」、With コロナへの対応が求められる。
- ・したがって、これまで食育として推進してきた内容と方法を、この状況下に適したものへと、改めて検討する必要がある。
- ・その上で、第3次食育推進基本計画からの継続性を考慮し、かつ国際的な食・栄養の動向も考慮した重点課題を設定すべきである。

## 第4次食育推進基本計画の重点課題として考慮すべき点

### 1. 新型コロナウイルス感染症対策下での「新しい生活様式」に対応した食育の推進

- ✓ 内容として：これまで推進してきたことの継続を重視しつつ刷新
  - ・若い世代へ：感染症予防のための良好な栄養状態、そのための食事のバランス
  - ・食体験として：家庭での食事づくりの機会が増えた状況を活用、その意義を強調（家庭以外の共食の推進は難しいのでは）
  - ・フレイル予防（身体的フレイル、心理的フレイル、社会的フレイル）の視点での食育

### 2. 国際的動向としての「持続可能な食事・食生活」のための食育の推進

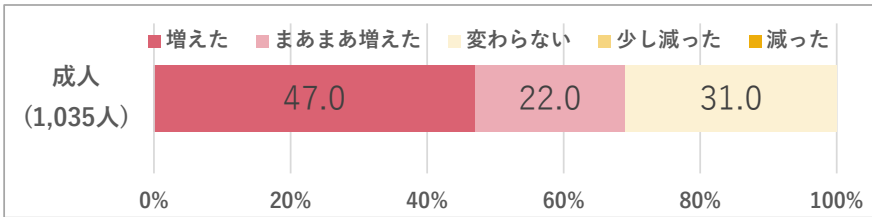
### 3. 対面の活動が制限される状況下での「オンライン食育」の推進

## 第3次食育推進基本計画の重点課題との対応

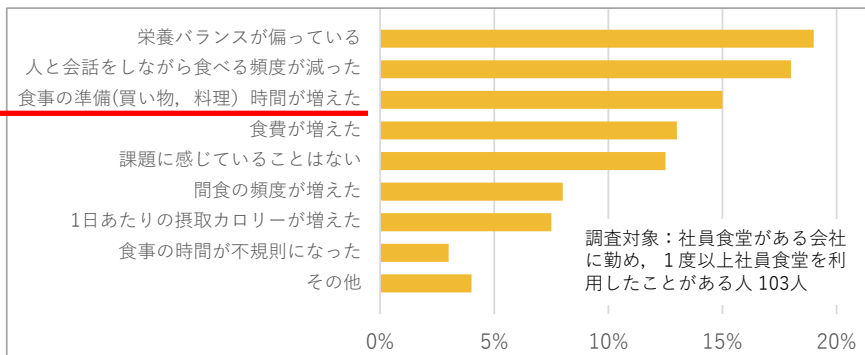
1. 若い世代を中心とした食育の推進
2. 多様な暮らしを支える食育の推進  
健全で充実した食生活を実現できるような食体験や共食の機会の提供
3. 健康寿命の延伸につながる食育の推進
4. 食の循環や環境を意識した食育の推進  
食品ロスの削減や食の生産から消費までの理解等
5. 食文化の継承に向けた食育の推進  
和食など伝統的な食文化への理解

# 1. 新型コロナウイルス感染症対策下での「新しい生活様式」に対応した食育の推進

- 第一生命経済研究所が、2020年4月に成人1,000名を対象に実施された調査では、感染拡大による運動習慣・食生活で、減った行動の第一位は「外食をすること」、増えた行動で最も多かったのは「自宅で食事をすること」であった<sup>1)</sup>。
- 料理や食に比較的熱心な成人を対象とした調査結果<sup>2)</sup>では、自宅での調理頻度が増加した人は約70%であった。



- 新型コロナウイルス感染拡大後、食生活に関して課題に感じていることは、「栄養バランスが偏っている」「人と会話しながら食べる頻度が減った」「食事の準備時間が増えた」<sup>3)</sup>



日本栄養改善学会HPより <http://jsnd.jp/shokuji.html>  
**「家で食事をすると、こんないいことがあるよ！」**  
 家で食事をすることと健康および食生活との関連に関する科学的根拠の紹介

**家で食事をすると、こんないいことがあるよ! その2**  
**子どものころから調理をしていると、大人になってより健康的な食生活が送れます!**

子どもの頃から調理を始めると、子どもの時だけでなく、大人になってからも、いいことがあります。

子どもの頃の調理経験は調理のスキルと自信を高めます!

自信がつかると、食への関心も高まり・・・

栄養・食の情報に敏感になり、健康的な食生活を送るようになります。

子どもの頃の調理 → 調理のスキル & 自信 ↑ → 食への関心 ↑ → 健康的な食生活

でも、子どもに調理を続けさせるには、どうしたらいいの?

子どもは、「調理がうまくなりたい」「自分が調理して家族が喜んでくれたらうれしい」と考えて調理をしています。家族が喜ぶと、子どもはうれしい気持ちになり、これからも調理を続けたいくなるでしょう。

それは、子どもが調理したら、「よろこぶ」ことです!

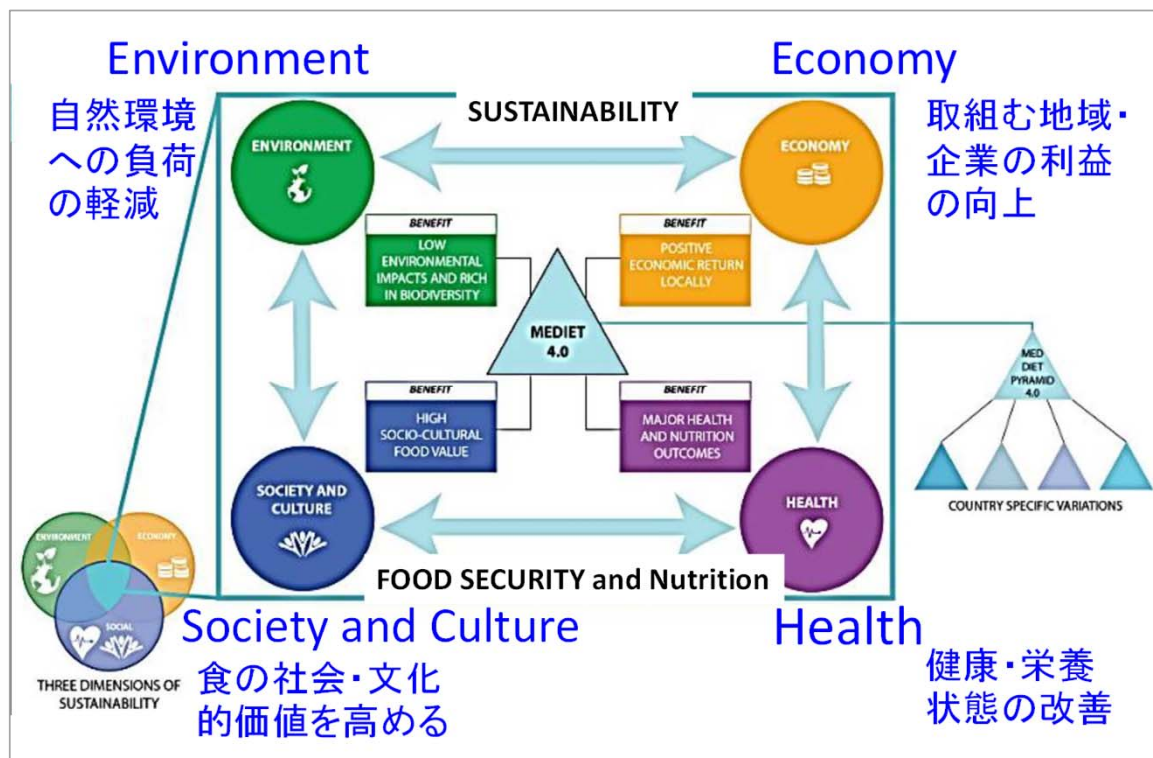
【担当:赤松利恵 (お茶の水女子大学)】

その1 食事を作る経験は子どもの食意識と自尊感情を高めます!  
 その3 家で食事をすると、インスタント食品や惣菜への過度の依存を防げます!  
 その4 高齢者にとって、食事づくりと共食の機会を増やすと、健康維持につながります!

1) 第一生命経済研究所：新型コロナウイルスによる生活と意識の変化に関する調査（後編）． Available at: [http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004\\_02.pdf](http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2020/news2004_02.pdf) Accessed July 25, 2020  
 2) アイランド(株)：新型コロナウイルス感染症流行による「家庭での料理」の変化に関するアンケート. <https://www.atpress.ne.jp/news/211593>  
 3) NPO法人TABLE FOR TWO International：在宅勤務推奨に伴う食事・運動の変化に関するアンケート. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000138.000008886.html> (いずれも2020年6月29日アクセス)

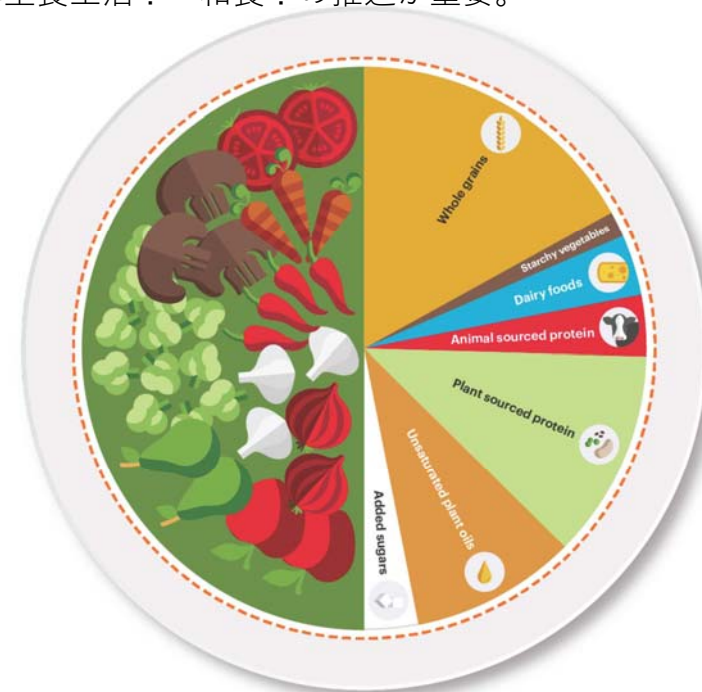
## 2. 国際的動向としての「持続可能な食事・食生活」のための食育の推進

- 日本では“健康食”として認知度の高い「地中海食」のめざすところは、健康・栄養状態 (Health)の改善だけではない。環境、経済、食文化の視点からも持続可能性のある食事・食事法をめざすべきとされている。



Dernini S, et al, on behalf of the Scientific Committee of the International Foundation of Mediterranean Diet. Public Health Nutr. 2016; 20: 1322-1330

- 国際的医学誌「Lancet」に、2019年1月、地球の健康と人間の健康の双方にとって望ましい食事の提案「EAT-Lancet委員会」から発表された（報告書もあり）。
- 全粒穀物、野菜、果物、豆類などの植物性食品を増やし、赤身肉（牛肉、豚肉等）と砂糖を半減することを提言。
- 日本の食事は、ある部分、この提言にかなり近い。改めて、日本型食生活？ 和食？の推進が重要。



The EAT-Lancet Commission on Food, Planet, Health  
<https://eatforum.org/eat-lancet-commission/>

# 第4次食育推進基本計画の重点課題の方向性（たたき台）

## 第3次食育推進基本計画

<コンセプト>  
実践の環を広げよう

### <重点課題>

- (1)若い世代を中心とした食育の推進
- (2)多様な暮らしに対応した食育の推進
- (3)健康寿命の延伸につながる食育の推進
- (4)食の循環や環境を意識した食育の推進
- (5)食文化の継承に向けた食育の推進

### <食をめぐる現状>

- ・新たな生活様式への対応
- ・デジタル化
- ・SDGSへのコミットメント
- ・少子高齢化
- ・成人男性の肥満、若い女性のやせ、高齢者の低栄養
- ・単独世帯や共働き世帯の増加
- ・地域社会の活力低下
- ・食の外部化の進展
- ・食や食に関する情報の氾濫
- ・食料自給率37%（平成30年、加リ-ベ-ス）
- ・食品ロス612万トン（平成29年度推計）

SDGsの目標は、食育の推進によって貢献可能

### <主な論点>

- ・新しい生活様式では、家族と過ごす時間が増える一方で、例えば地域での共食など、これまでと同様な取組が難しい状況
- ・デジタル化の推進、暮らし方や働き方の変化に応じた食育を推進していく必要
- ・高齢化の中で、健康寿命の延伸が課題であり、子供（乳幼児期を含む）から高齢者まで生涯を通じた食育の推進が重要
- ・栄養教諭や関係者等と連携して、食育が乳幼児期から体系的、継続的に実施されることが必要
- ・家庭において、早寝早起きや朝食をとること等の基本的な生活習慣の形成が重要
- ・職場等で健全な食生活を実践しやすい環境づくりが重要
- ・食品の選び方等基礎的な知識を持ち、行動することが必要

- ・食生活が自然の恩恵の上に成り立ち、生産者の様々な活動に支えられていることの理解を深める上で、農林漁業体験は重要
- ・学校給食に地場産物を使用し、地域の自然や産業への理解を深め、食に関する感謝の念を育むことは重要。栄養・教育関係者、生産者等関係者の協働による推進が重要
- ・持続可能な食料生産から消費に至るまでのストーリーを子供の頃から身近に感じることが重要
- ・生産から消費までの環境負荷を低減できるよう、環境と調和のとれた食料生産と消費に配慮した食育の推進が必要
- ・ユネスコ無形文化遺産「和食；日本人の伝統的な食文化」を全ての日本人が保護・継承するとともに、人材の育成が必要
- ・地域において、多様な関係者が連携・協働しながら食育を進めていくことは、国民運動の広がりのために重要

## 第4次食育推進基本計画

<コンセプト>  
食育によるSDGs達成への貢献

### <重点課題の方向性>

- (1)新しい生活様式に対応した食育の推進
- (2)国民の健全な食生活の実践を支える食育の推進
- (3)持続可能な食の「3つのわ（環・輪・和）」を支える食育の推進

### <めざす到達点>

食育によるSDGs達成への貢献

- ・心身の健康の増進と豊かな人間性の形成
- ・持続可能な食・フードシステムの構築



# 第4次食育推進基本計画の重点課題の考え方（たたき台）

## 食をめぐる現状

- ・新しい生活様式への対応
- ・社会のデジタル化への対応
- ・SDGsへのコミットメント
- ・成人男性の肥満、若い女性のやせ、高齢者の低栄養
- ・少子高齢化
- ・単独世帯や共働き世帯の増加
- ・食の外部化の進展
- ・食や食に関する情報の氾濫
- ・地域社会の活力低下
- ・食料自給率37%（平成30年、カロリーベース）
- ・食品ロス612万トン（平成29年度推計）

### <重点課題>

## 新しい生活様式に対応した食育の推進

### <重点課題>

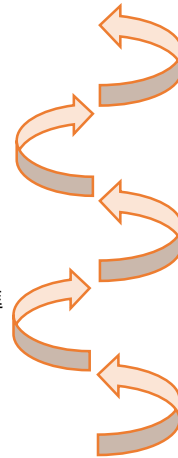
## 国民の健全な食生活の実践を支える食育の推進

### <重点課題>

## 持続可能な食の「3つのわ(環・輪・和)」を支える食育の推進

### <推進する内容>

- 家庭における食育の推進
  - ・食生活の多様化を踏まえた「日本型食生活」の推進
  - ・乳幼児期からの基本的な生活習慣の形成に資する食育の推進
- 地域における食育の推進
  - ・健康寿命の延伸につながる食育の推進
  - ・高齢者に対する食育の推進
  - ・様々な共食機会創出の推進
- 学校等における食育の推進
  - ・栄養教諭等を中核とした食育の体系的、継続的な実施の推進
- 職場における従業員等の健康に配慮した食育の推進
- 食品関連事業者における食育の推進
  - ・安全で健康的な食事が入手可能な環境づくりの推進
  - ・健康支援型配食サービスの推進や介護食品の普及促進



- 国、地方公共団体等の食育の推進における役割
  - ・「早寝早起き朝ごはん」国民運動等を含めた食育関連施策の推進や各主体による食育の支援、優良取組事例の発信
  - ・デジタル（オンライン）を有効活用した食育の推進
  - ・「食育推進プラットフォーム（仮称）」を活用した食育推進体制の強化と効果的な情報発信
  - ・市町村食育推進計画の作成促進

- 食料の生産から消費に至る食の循環を意識するとともに、食の循環を担う多様な主体の「食の輪（つながり）」を広げ深める食育の推進
  - ・生産者等や消費者との交流の促進、地産地消の推進
- 環境と調和のとれた持続可能な食料生産とその消費にも配慮した食育の推進
  - ・食品ロス削減や、生物多様性の保全に効果の高い営農活動等持続的な生産方法や資源管理等に関して、理解と関心の増進のための普及啓発の促進
  - ・持続可能な食・フードシステムにつながるエンカル消費の推進
- 和食文化の次世代への継承につながる食育の推進
  - ・中核的人材の育成等の体制の強化
  - ・子供や子育て世代が手軽に和食に接する機会を増やす官民協働の取組の推進
- 関係機関・団体と連携した農林漁業体験の推進
- 学校設置者と生産・流通部局及び農林漁業者との協働による、学校給食における地場産物・国産食材の使用の推進
- 地域の多様な和食文化の継承につながる食育の推進
  - ・郷土料理等のデータベースの構築
  - ・和食が持つ文化財としての価値の評価・見える化の推進
- 食品ロス削減に資する食品関連事業者等の取組の促進

国民の健全な食生活の実現

地域社会の活性化

豊かな食文化の継承及び発展

環境と調和のとれた持続可能な食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上

心身の健康の増進と豊かな人間形成

食育によるSDGs達成への貢献

持続可能な食・フードシステム